

事業 No. 1-14、No. 1-43 小原規宏、細谷幸男 実地学習への交通費補助報告書

実施期間 2025 年 10 月 29 日（水）

実施場所 笠間市

参加者 学生 31 名，教員 2 名（細谷クラスとの合同開催）

目的 メジャー基礎ゼミナールⅡの巡検として，笠間市笠間地区の門前通りや工芸の丘、そして道の駅での活性化への取組みについて関係者から説明を受けた。

日程

10:30～11:10 茨城大学発

11:10～11:20 稲荷駐車場

11:20～11:50 井筒屋（館長説明 10 分・施設見学 20 分）

11:50～13:30 笠間稲荷神社門前通り（神社参拝・菊まつり見学・昼食）

13:30～13:45 稲荷駐車場

13:50～14:00 芸術の森公園北駐車場

14:00～14:10 徒歩で笠間工芸の丘へ

14:10～15:10 笠間工芸の丘（社長説明 15 分・施設見学 45 分）

15:10～15:20 芸術の森公園北駐車場

15:20～15:25 バスで道の駅へ移動

15:30～16:30 道の駅かさま（駅長説明 15 分・施設見学 45 分）

16:30～17:10 茨城大学着

活動の様子



道の駅かさまで駅長から説明を受ける様子。

学生の感想（一部）

・笠間市での巡検を通して、クリエイターたちが暮らし、創作活動を行う地域の空気を肌で感じることができました。それまでは笠間焼について詳しく知らず、あまり興味を持つこともありませんでした。しかし、実際に現地を訪れ、芸術文化が生活に根付いたまちの姿に触れるうちに、笠間の文化を大切にしたいという思いが芽生えました。笠間芸術の森公園では、修行中の若いクリエイターが制作と生計を両立させながら活動しているということを知り、その姿に強い感銘を受けました。帰宅後、感化されて今までチャレンジしたいと考えていた油絵を始めたほど、この体験は私にとって大きな刺激となっています。

・笠間カラーとして深い赤色を設定し、栗やそば、いなり寿司など名産品を笠間でブランド化することで観光地としての魅力を高めていた。菊まつりに地元の幼稚園が参加していたり、工芸の丘でマルシェが開催されていたり、地域全体がまとまって笠間を盛り上げようと協力して様々な工夫をしていると感じた。

・外国人観光客が多いと思っていたが、実際は日本人の高齢者の観光客が多かった。焼き物や栗などが、外国人よりも日本人により愛されていると考える。しかし、平日と土日・祝日では観光客の客層が変化すると考える。また、景観を整えることで、笠間の主要な色のアピールや歴史的景観の維持にもつながると考える。

・複数のお店を並行して経営しているという実態が紹介されていたように、飲食・物産展など様々な店舗があり、それによって観光客も店舗に足を運びよりお金を落としてくれるような実態になっているのではないかと考えた。平日の日中ということもあって、高齢者世代を多く見かけたが、若い世代の人も散見され、その背景におしゃれなカフェや飲食店が複数立地していることがあるのではないかと考えた。一方でたくさんの車が行きかっていたように、交通手段が自家用車が多い問い印象を受けたが、その割には駐車場があまり整備されていないように感じた。茨城交通のバスも2～3時間の間に2回ほどしか見かけておらず、アクセスに関しては今後検討する余地があると思う。

・現金以外の支払い方法に対応する店を増やすことで、キャッシュレス決済をメインで使用する層をターゲットにすることが出来ると考えた。電子クーポンの発行も経済の活性化に効果的だと考える。

・イベント期間以外にも観光客を呼び込むためには、定期的にイベントを開催し、外部の企業との連携を強めるなどが有効策であると考えた。

・笠間市だけでなく、茨城県全体の観光地で連携したスタンプラリーを開催すると他県からの関心にもつながると考えた。笠間市の城などのスタンプは、もともと笠間の魅力を知っている人や実際に訪れた人以外の人には嬉しい要素だと感じた。しかし、笠間を全く知らない人にとっての需要は少し低いと考えた。

・アニメとのコラボは、アニメのファンたちをお客として呼び込むことができ良いと思った。立ち絵パネルやチラシでのコラボが見られたが、笠間市限定で購入できるコラボグッズ

があればなお集客が期待できると考えた。

・今回の笠間巡検では、事前に抱いていた地方の観光地＝平日の昼間は人が少ないというイメージと現実がかなり違っていたことが印象的だった。道の駅かさまでは、観光のお土産的な物だけでなく、地元の農産物や工芸など地域の産業を直接売る場として成立しているのが印象的だった。単に休憩スポットにとどまらず、購買の場、地域の情報発信拠点、交流スペースとして機能しているように見えた。幅広い年齢層の利用者がいたことは、道の駅が地域の経済と人の動きをつなぐ重要な役割を果たしていることがわかった。

・お祭りが開催して一週目にあったため、人が多かったのではないかな。また、道の駅では、モンブランのキッチンカーが多かったのは、道の駅笠間といえば「モンブラン」というようなイメージが定着しているため、モンブランの品切れを防ぐ目的や、モンブランの食べ比べを進めるなどして、モンブランによる経済効果を創出しようとする狙いがあったのではないだろうか。さらに、笠間焼の値段が高かったのは、芸術品であることもあるだろうが、陶芸学校を卒業したことに起因するものもあるのではないかなと思った。

・菊祭りや芸術の森でのイベントなど様々なイベントを開催することにより集客をしようとしていることが分かった。実際に行ってみると想像以上の盛り上がりであったが、あまり遠くからの観光客は多くないのではないかなと思った。おいしい食べ物や自然の豊かさが魅力的でもっとたくさんの人に伝わるといいと思った。しかし、観光地同士の距離感が遠く高低差もあるため、車がないと回るのが難しいのではないかなと思った。道の駅は装飾がとても印象に残って栗のイメージの定着にも貢献していると思うので他の施設でも活用することができそうだなと思った。